

減少するギフチョウ

かつては多くあったギフチョウの産地は、近年の農業形態の変化や廃農による里山の荒廃さらに工場・住宅地造成などの開発によって、今では狭い範囲に限られてきています。

そこで毎春、加納さんたちは成虫の飛翔・産卵などの生息調査を行っています。

また、残されたギフチョウの産地において、ヒメカンアオイの生育を妨げる下草を刈りとしています。作業前は草が生い茂り、人が歩くのもままならなかつ



下草刈りの作業を行う「伊賀ふるさとギフチョウネットワーク」とボランティアのみなさん。

た状態でしたが、作業が終わると、地面にはヒメカンアオイの葉が顔を出しているのを見つけることができます。手つかずの里山よりも、ある程度、人の手によって管理された里山であることが、ギフチョウをはじめとする他の生物を守ることにもつながるのです。

保全活動「下草刈り」

この産地一帯は、10年程前までいくかの畑があったそうです。今は使われていない農地が増えたため、定期的に下草刈りを行っています。



下草刈り前

下草刈り後



います。使用されていない農地で蜜源植物であるレンゲを育てたり、ギフチョウの産地におけるヒメカンアオイが減少していることから、栽培し、増やす試みも始めています。

郷土の自然を守る

限られた地域のなかで細々と残る伊賀地方のギフチョウは、いつ絶滅してもおかしくない危機的な状況におかれています。

「これから訪れる人々のためにも、郷土の自然財産が消滅してしまうのを見ていられなかった」



ギフチョウが天然記念物に指定された際、設置した看板。採集者への自粛を促す目的で設置されました。また、ギフチョウ保護の啓発を図るため、市民向けの観察会や小学校での課外授業なども行っています。

写真提供：「伊賀ふるさとギフチョウネットワーク」

と話す加納さんの言葉の中には、諦めず守っていくこうとする強い想いが感じられました。将来に伊賀地方のギフチョウを残していくこうと今後も継続的な活動が続けられます。

三重の天然記念物

「環境学習みえ」では、「三重の天然記念物」を特集してきました。

希少な生物が残されている地域は、豊かな自然環境に恵まれているといえます。天然記念物をはじめとする豊かな自然をこれからも引き継いでいくために自然との関わりについて考えていただけたらと思います。

みんなで、守ろう！活かそう！三重の文化財
「天然記念物」三重県教育委員会ホームページ
<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/bunkazai/about/tennen.htm>